

## 委員提出資料

草間委員提出資料	.....	1
坂本委員提出資料	.....	3
森委員提出資料	.....	4

## 意見書

平成 21 年 1 月 21 日

草間 朋子

(大分県立看護科学大学)

### 1. 看護教育のあり方について

3 回の検討会での意見が、十分反映されていないと思われまますので、5 つ目と 6 つ目のパラグラフを以下のように書き換えることを提案いたします。

○保健師は、今後、対応すべき健康課題がますます幅広くなり、より高い専門性が求められることから、その教育内容の充実が必要である。現在の統合教育の下で行われる教育では、十分な教育時間が確保できないだけでなく、保健師になる意思のない者まで教育対象に含まれているために、実習場所の確保の難しさもあり必要な教育を十分に行うことができないので、統合教育を見直し、大学院での教育を含め、より専門性を高めるための教育内容、教育方法等を検討する必要がある。また、現行の統合教育のままでもよいという意見もある。

○助産師は、今後、より高い専門性が求められることから、その教育内容の充実が必要である。助産外来、院内助産所の開設など、昨今の多様なニーズへ対応するための教育には高い専門性が求められることから統合カリキュラムを見直し、大学院教育を含め、より専門性を高めるための教育内容、教育方法等を検討する必要がある。また、助産師の量の確保等の観点から現在の統合教育のままでもよいという意見もある。

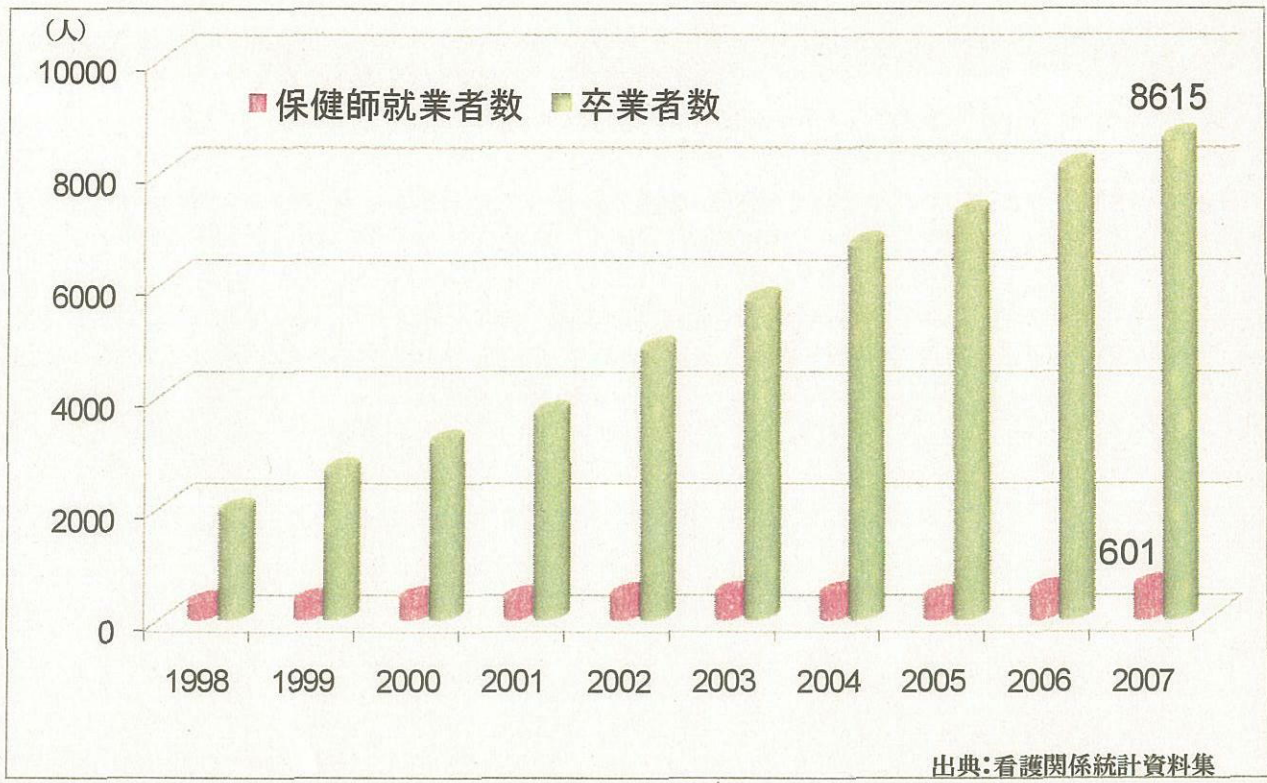
### 3. チーム医療の推進について

3 回検討会の議論の中で、NP(ナースプラクティショナー)を含めた高度な実践ができる看護師の議論がありました。そこで、4 つ目のパラグラフを以下のように変更することを提案いたします。

○看護職員がチーム医療における役割を果たすためには、患者の状態の予測力や判断力、コミュニケーション能力等が極めて重要である。看護職がこうした能力を持ち、その能力を患者のために積極的に発揮できるようにするためには、基礎教育および大学院教育を含めた看護教育の充実を図るとともに、能力を活用できる制度を検討する必要がある。

以上

# 大学卒業生数と大学新卒保健師就業者数



## 保健師教育の望ましい単位数

厚生労働省「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」より

現行

教育内容	単位数
地域看護学 地域看護学概論 個人・家族・集団の生活支援 地域看護活動展開論 地域看護管理論	12
疫学	4
保健統計	4
保健福祉行政論	2 (3)*
臨地実習 個人・家族・集団の生活支援実習 地域看護活動展開論実習 地域看護管理論実習	3 (4)
総計	21 (23)



望ましい単位数
20
4
4
4
8
40

\* 括弧内は平成21年度からの新カリキュラム単位数



## 望ましい助産師教育

助産師の望ましい教育(単位数)については、厚生労働省「看護基礎教育の充実に関する検討会」で既に検討済み

助産師教育	現行		看護基礎教育の充実に関する検討会 (平成18～19年)	改正案	
	教育内容	単位数		望ましい単位数	
	基礎助産学	6		8	
	助産診断・技術学	6		10	
	地域母子保健	1		2	
	助産管理	1		2	
	臨地実習	8 (9)		12	
	総計	22 (23)		34	

\* 括弧内は平成21年度からの新カリキュラムの単位数

出典:看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 H.19.4.16

## 助産師養成機関数と平均国家試験受験者数



※養成所:短大・大学院・大学専攻科含む 学校数は、当該年に卒業生を輩出した校数

出典:厚生労働省看護課公表資料より作成

議論の整理（案）に対する意見

○現在の統合教育が良いのは、単に、助産師（保健師）の量の確保の観点からだけではない。

教育上の利点があるからである。以下が根拠資料。

○教育内容の見直しと養成機関が多様であることは一緒に論ずるべきことである。

平成18年度日本看護系大学協議会事業報告「助産師教育検討委員会」からの  
学士課程の統合カリキュラムにおける助産師教育プログラムの利点（抜粋）

\*\*\*\*\*

「助産師教育検討委員会」委員

前原澄子（委員長 京都橘大学）	遠藤俊子（山梨大学）
新道幸恵（青森県立保健大学）	高田昌代（神戸市看護大学）
高橋真理（北里大学）	田中満由実（山口大学）
堀内成子（聖路加看護大学）	森恵美（千葉大学）
村本淳子（三重県立看護大学）	横尾京子（広島大学）

\*\*\*\*\*

新道幸恵他（平成18年）：学士課程の統合カリキュラムにおける助産師教育プログラム  
開発のための準備調査、平成17年度文部科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告

- ①多様な資格取得希望者のニーズに応えられる。
- ②学士で資格取得が可能である。
- ③基礎看護教育の中で、体系的に看護を学習しながら資格が取得できる。
- ④助産学実習指導に専念できる教員が存在する。
- ⑤基礎教養科目が充実している。
- ⑥助産師学生が大学院生と接する機会がある。

横尾京子他（平成18年）：「4年制大学新卒者のための大学・利用者協働型教育・研修  
プログラムの開発」（平成17・18年度文部科学研究補助金（萌芽研究））

- ①ICM コア・コンピテンシーを用いた質問紙調査において、新卒者に期待する能力は、  
出産経験女性・産科棟助産責任者・4大卒業生のいずれも半数以上が期待した能力は、  
妊娠および分娩期の基礎的知識に関わる10項目であり、この内容は、統合カリキュ  
ラムにおいて重複なく、かつ、広い観点から教えていくことが可能な内容であった。
- ②上記①同様の三者を対象としたフォーカス・グループ・インタビューでは、三者とも  
「技術的なことは、指導者の元で実施できればよい」と認識しており、新卒者研修体  
制の充実化が課題であることが明らかになった。
- ③上記②の調査において、女性は「出産に対する自己の信念を持つこと」「女性や家族の  
価値観の尊重」「寄り添い、励まし、手を尽くすこと」「異常の判断と相談・報告」等、  
安全で快適、かつ個人が尊重された出産体験を求めている。また、責任者は「協働」  
「記録」「専門的知識（早産・帝王切開・死産のケア）」、卒業生は「協働」「自律と自  
己責任」「女性や家族の価値観の尊重」を新卒者の能力に求めている。これらは、4大  
における到達目標と一致しており、大学生の利用者の視点からみた助産教育のコア・  
コンピテンシーと位置づけることができる。

\*\*\*\*\*